

# 大会特集号

# あきた PTA きた



## 実り多く、楽しかったかつの大会

かつの大会は、湯瀬ホテルに500余名の参加を得て開催され、2分科会は熱気に溢れ、その夜の情報交換会は更に熱く燃え、話の花がいっぱい咲きました。

桂才賀師匠の基調講演は、笑いあり、涙ありの講演で会場を沸かし、来年度開催の東北ブロック研究大会秋田大会の成功を誓って終了しました。

以下、大会特集号のトップを飾って「かつの大会」を報告します。



夢ある子育て、愛ある子育て

【発行】秋田県 PTA 連合会 【事務局】秋田市山王中島町 1 番 1 号秋田県生涯学習センター内  
TEL (018) 864-8975 FAX (018) 824-7935 E-mail:pta-akita@helen.ocn.ne.jp http://www.pta-akita.com



# 第36回 秋田県PTA研究大会



講演：

## 「子どもを叱れない大人たちへ」

講演要旨

講師：桂 才賀 師匠

私は少年院に通い始めて25年になります。こうして、講演で歩くついでにその土地の少年院を訪ねます。最初は家内の実家のある沖繩から始まり、少年院の面接員（カウンセラー）になって、全国53の少年院を回り、3周年目になりました。

ここに、現代青少年気質川柳集 柳木編があります。暴走族の子供たちの川柳です。「勉強のやる気が失せる母の声」「勉強せえ昔はあんたも言われたろ」「この人は向いてないのに教育者」そして川柳集から県内各学校で選ばれたトップは「たまにはよ叱ってみろよ大人たち」でした。

多くの大人たちは、怒ると叱るを混同してはいるようです。怒るという行為は自分を擁護して相手を攻撃している状況です。「バカ、ドジ、まぬけ、死ぬ」子どもでも怒ります。叱るといのは過ちを正してやることと広辞苑にあります。

「何時だと思ってる。中学生がタバコ吸っていいと思ってるのか」これに対しては「死にてえのか、じじい」と出てきます。「こんな遅い時間まで、父ちゃん、母ちゃん、心配してるぞ。今からタバコ吸つてると伸びる背も伸びねえぞ」同じことを言っているようですが、「うるせえなぐらいで下がります。怒ってる人の言葉には陰があり、叱る言葉にはどっか愛情が感じられます。独房で綴られたレポートの一部です。」

うれしかった父の一言  
大切な息子だ。命を大切に生きてほしい。

悲しかった父の一言  
籍は抜く。死んだものと思う。出て行ってくれ。

母に言いたい一言  
面会のつくり笑顔。帰るとき寂しそうな背中。その背中に病気をするな母ちゃんって叫んでいるんだ。

うれしかった先生の一言  
万引きで捕まって、警察で長い時間置かれて廊下に出たら先生が来ていた。ラーメン喰うか。抱きつきたっかたけど、恥ずかしくてしなかつたけど。

先生に言いたい一言  
少年院に年賀状をくれた先生、ありがとう。年賀状は宝物です。

裁判官へ一言  
赤の他人の私に涙を流してくれた裁判長さん、あなたに誓います。もうワル、卒業です。

是非聞いてもらいたい歌があります。この曲ができるまでを聞いていただいていたから歌に入ります。

東京の八王子市で起きた「おやし狩り」の事件です。3人の少年による犯罪です。7人を襲い、3人を死せませ、4人に大けがを負わせました。3人に対する判決の日

の裁判長の言葉は今も克明に覚えております。

「私から個人的に言っておきたいことがあります。君たちが20歳であつたら死刑であつたでしょうが、今回生きること許されました。いつか社会に出てきた時に、初めて給料で買つてもらいたいものがあります。それは君たちが命を奪つた方々への墓参りの花と線香です。そしてもう一つは「償い」という曲です。仕事に出かける前、夜寝る前に聞いて、十字架を背負つて生きてください。」

「償い」という曲ができたのは交通事故からです。まじめな青年ゆえに起きた事故です。病気の母のために懸命に働いて、一瞬の睡魔のために人をはねてしまいました。交通刑務所に入り、やがて社会復帰を果たします。その時から給料の半分を未亡人に送りますが、返されず。毎月送り、毎月返されて7年目、手紙が添えられていました。それが「償い」という曲です。もう15年も前の曲ですが、暗幕を引いて、小・中学生に聞いてもらっています。

「前略 人殺し あんたを許さないと 彼をののしつた 被害者の奥さんの足元で 彼はひたすら大声で泣きながら ただ頭を床にこすりつけるだけだった」

中略 償いきれるはずもないが せめてもと毎月あの人に仕送りをして

ようやく7年目に初めてあの奥さんから初めて彼宛に届いた便り。ありがとう。あなたの優しい気持ち。とてもよくわかりました。だから、どうぞ送金は止めてください。あなたの文字を見る度に、主人を思い出して辛いのです。

中略 償いきれるはずもない。あの人から返事が来たのが、ありがたくて、ありがたくて、中略 人間って哀しいね。だってみんなやさしい。それが傷つけあって、かばいあって、何だかもらい泣きの涙が、とまらなくて、とまらなくて。」

これは、さだまさしの「償い」です。この曲ができた訳を説明した後で、目を閉じて聞かせてください。

最後に、小話です。小学2年生のリカちゃんが留守番をしておりました。そこに電話です。「リカちゃん、お父さんいる？」「お父さん？」「お父さんにかわって？」「お父さん代わったよ」「お父さんかわった？」「お父さん出して」「お父さん出て行った」「これを笑える方は良いのですが、たまにはうなだれてる方もいますね。

ともかくも、子どもは国の宝です。自分の子、自分の生徒はもちろんですが、他人の子ども、生徒も怒るんではなく、きちんと叱ってあげてください。

第一分科会

PTAで考える環境教育

「とつても身近なe.c.o.ワークショップ」

鹿角地域で、長年人づくり、地域興しの活動を続ける「かつの21プラン」の事務局長を務める田中喜昭氏を講師に開催された分科会1の報告です。

鹿角市は米代川の上流に位置します。奥羽山脈に降った雨が太平洋に流れるか、日本海にそそぐかの分水点であります。その鹿角から水環境を守るメッセージが届けばと思っています。

今日はNPOかつの21プランというグループの活動の実践事例を聞いていただきますが、主人公は皆様にお渡しした石けんです。

石けんは5千年程前の古代ローマ時代に、自然偶発的にできたと言われています。生け贄の羊を焼いて滴り落ちた脂と焼いた木灰(アルカリ)からです。

そこから拾った土で体を清めたら病気が治った。つまりは石けんを洗って清潔な体にしたということです。以後、脂とアルカリで石けんが作られてヨーロッパにひろがりました。

合成洗剤は70年前、ドイツで創られアメリカから日本に来たといわれていますが、

その後から環境汚染や皮膚障害が起きました。合成洗剤の原料は石油からいろいろなものを取った残りのタールです。人工的に創った界面活性剤なので合成洗剤といわれています。

「界面活性剤」は汚れを落とす力ですが、石けんにも合成洗剤にもあり、毒でもなく、泡の出るものでもなく、混じり合わない液体と液体の境の面を混ぜることの力、汚れの落ちる原点です。

石けんは動植物の油脂とカセイソーダなどのアルカリを反応させたもので、酢で中和します。川に流れたときに油脂酸ナトリウムという、微生物が分解されるものと二酸化炭素とグリセリンに分解されるので成分回生が良いのです。

合成洗剤は界面活性剤、合成物質のアルキルベンゼンスルホル酸ナトリウムなどに蛍光増白剤が入っておりまして、これは確実に動植物を殺してしまいう力があります。環境汚染のワースト1です。体にも大きな影響を与えています。50年、100年でも分解されない合成物質と言われています。

蛍光増白剤は汚れを落とすには関係ない成分です。白く染める絵の具です。この絵の具は発ガン物質で、食品衛生法、薬事法などで規制されています。

合成洗剤の売れるのは「泡の力」です。石けんは泡がすぐ無くなりやすから使い物にならないとなるわけですが、合成洗剤は泡が立ちつばなしで消えない、反面、下水で流れて二度と分解されない物質として残留することになります。

日本全体で合成洗剤を1年間でどのくらい使っているのか、ごみ収集車で約50万台、東京ドーム3個分というデータがあります。便利さと、安さとを引き換えに合成洗剤を多く使っています。1つの工夫で10回に1回、100回に1回でも一人に教えることにより、環境へのインパクトは確実に少なくなると信じています。PTAで考える環境教育というのは、工夫によって、お金をかけなくても良くなっていく現象があるのだから、共に苦勞しませんがということで、私のテーマの1つです。

毎日の米を洗うとき汁、2リットルを川に流すと魚が棲みにくくなります。お風呂4杯分の水で元に戻るといわれています。ラーメンの汁200ミリリットルは風呂3、3杯で薄めないと河川は甦りませ

ん。てんぶら油50ミリリットルは100トンの水を流さないで処理できません。それで私たちはこの油をポランテアで回収して石けんに作り替えてお分けしています。

ワークショップで作る石けんは良く落ちます。スライディングなどの泥汚れがすばつと落ちます。油性マジックも落ちます。油脂分解にたけている石けんです。手は荒れません。

小坂小学校の研修でこの話をしてから、6年生が卒業記念にということで、この石けんで、ブランコの支柱(鉄棒)を洗いました。マジックが落ちるだけでなく、さびも落ちます。科学的根拠はわかりませんが、さびにくくもなりません。さびの落ちた後にきれいな塗装をして学校に返して卒業したといううれしい話もありました。

私がこの活動を始めて6年くらいになりますが、最後に大好きな言葉をお伝えして終わります。これはアメリカの先住民、ナホバ族が自然について語っている言葉です。「自然は先祖から譲り受けたものではない。子孫から借りているものであって、今以上に良い状態で返さなくてはならない。」と言ひ伝え、教えています。

今日は、鹿角地方での一つの実践事例を話しましたが、地区単PのPTA活動とし

て、子どもたちと環境に目を向けながら身近なエコで環境を良くすることを考えていただければと思います。

パソコンの画面を駆使した講話はわかりやすく、その合間のワークショップも楽しく、続く意見交換もオリープオイルで作った石けんの実践例、手作り石けんの効果など話が弾んで終了しました。





## 第二分科会

「子どもたちのケータイ利用の本当のリスク」  
いま、保護者が知っておかなければならないこと

分科会IIでは、「子どもたちのケータイ利用の本当のリスク」いま、保護者が知っておかなければならないこと」のテーマで、子どもたちのインターネット利用について考える研究会事務局の奥田匡彦氏（ピットクルー株式会社）と佐川英美氏（ヤフー株式会社）から講話をいただきました。

以下は、講話の概要です。



○この10年間で、情報環境は大きく変わり、携帯電話やインターネットは子どもたちにとってごく身近なものとなった。秋田県でも中学校3年生で約3分の1、高校3年生になるとほとんど全ての生徒が、専用の携帯電話を所持するようになってきている。

○従来の通話やメール中心の使い方から、コミュニケーション中心の使い方になってきている。掲示板での誹謗中傷や個人情報流出など、トラブルの内容も多様化、複雑化してきている。

○プロフ（プロフィールサイト）や交流サイト（SNS）は、自己紹介、日記、掲示

板、メール、サークル、ゲームなど、多様なサービスが盛り込まれていることから、子どもたちに人気があるが、知らない相手と直接コンタクトできる機能があることから、危険に巻き込まれるケースも増えてきている。

○具体的な事例として、「個人のプロフへの誹謗中傷の書き込み」「掲示板でのネットいじめ」「出会い系サイトや家出サイトでの勧誘」「ワンクリック詐欺」「無料と称するゲームサイトのコンテンツ利用にともなう、高額請求の発生」などを紹介。ネット上の隠語やスラングなども多数生まれており、監視や検索の網をくぐり抜け、大人が把握しにくくなっている。

○子どもをネット上のトラブルから守るために、保護者ができることは何か。

まずは、安全安心な利用環境を整えること。例えば、フィルタリングの利用や、家庭のルール・約束をつくること。最近では、ポータブルゲーム機によるインターネット利用も増加しているが、フィルタリングやペアレンタルコントロール（機

能制限）を利用している例は少なく、今後十分な注意が必要。

○次に、インターネットの特性を理解すること。匿名ではないことや、一度掲載された内容は取り消せないこと、仮想世界ではなく現実世界であることなどの特性を、親も知らなくてはならない。

○最後に、ネットの利用目的を一度整理すること。インターネットや携帯電話を、何のために利用させているのか。自分の子どもに正しく使うための力が身に付いているのか把握しているか。安易に「みんな使っているから」使わせるのではなく、用途や能力に合わせて、段階的に利用させていくことが大切。

○子どもの能力を見極めるために、4つの段階（ステップ）がある。体験期（小学校中学年相当）、初歩的利用期（高学年相当）、利用開始期（中学生相当）、習熟期（高校生相当）がひとつの目安になる。

○「モラル・コミュニケーション」と、「知識・スキル」の2つの能力、どちらかが劣っていたり欠けていると、トラブルを起こすことになってしまふ。2つの能力をバランスよく身に付けさせていくために、成長段階に応じて機器を使わ

せ、インターネットと上手につきあえるようにしていくのが良い。

○子どもだけではなく、大人も学び、変わる必要がある。保護者が正しい知識を持ち、適切に判断し対処することが最も重要。インターネット特有の問題というのは少なく、本質的には教育・子育ての一環である。



講話の後は、参加者との意見交換が行われました。

まず、各家庭での利用ルールや体験談について、アンケート結果をもとに紹介がありました。ネットやゲームの時間を決めること、大人が一緒の時だけ使うこと、守れない時には禁止日を設けることなど、各家庭のルールが紹介されました。

ネットを使う時間ひとつとっても、勉強する前と決めている家庭、後と決めている家庭など、家庭の事情に応じて様々です。しかし、せっかくルールを決めても、なし崩しに守れなくなってしまうという家庭もあるようで、難しさも感じました。

また、ネットやケータイの必要性を子どもと話し合った上で、毅然として「持たせない」という選択をしている家庭もありました。そのほかには、携帯電話をどのタイミングで購入した

か、ゲーム機のフィルタリングや機能制限の設定方法、県内でもネット・ケータイ関係のトラブルが起こっているかどうかなど、多くの質問が出されました。

特に、ゲームに関するルールをどう定めているかは関心が高かったようで、他の家庭のルールなどを、熱心にメモしている参加者も多く見られました。

終了後のアンケートからは、「知りたくないことや眉をひそめる内容もあったが、知っていて損はないと思う」「PTA行事などで、短い時間でもいいから絶対やるべき」「親が思っている以上に子どもの興味関心は高く、利用の仕方も進んでいるので驚いた」「ネット上であれ、誹謗中傷はいじめであり、心が傷ついていることを学んでほしい」など、様々な感想が出されました。



第58回

# 日本PTA全国研究大会 ちば大会

平成22年8月27日～28日

会場 幕張メッセ他

「房の国 集い語れば 実りあり！」のスローガンで標記大会が、幕張メッセを中心とした10会場に8000人のPTA会員を集めて開催されました。

相川会長は房総半島沖の黒潮と親潮の出会いによる「うねり」を社会の変化に例え、子どもたちを慈しみ育てる環境は、母のような「そっと包み込む温もり」と父のような「遠くから見守る優しさ」の家庭・学校・地域社会の必要とともに、PTAにおいては少子高齢化する地域社会で、子どもたちの教育環境をどのように創り育てるかを考



えていかなければならないと結び、全国PTA会員に熱いエールを送られました。

引き続き、記念講演が行なわれ「叱って ほめて 抱きしめる」の演題で、日本男子テニス界のトッププレーヤーとして活躍した松岡修造氏が登壇されました。

松岡氏は1995年のウィンブルドンでベスト8進出を果たすまでの厳しい十代、二十代を熱く語り、世界を目指すジュニアのための「トツプジュニアキャンプ」や「修造学園」での体験談をステージいっぱい走り、時には会場に下りてまで、子どもたちとのかわりを説きました。

修造学園の「みんなで守ルール」・挨拶しよう・時間を守ろう・最後まであきらめない・みんなで助け合おう・ありがたうを言おう「その言葉ストッパ」（やる気をそこなう言葉は禁止！）・出来ないう、無理、やだ！、むかつく、ウザい、ビミョー、どっちでもいい、でもくだってキレた、言い訳しない、疲れた、痛い、暑い、眠い、寒い。これは大人にとっても大事なことだと肝に銘じる言葉でし

た。

その他にも、根性論だけでなく方法論をきちんと教えること、三日坊主は少なくとも三日は続くこととらえる等々物事を前向きにとらえる若さはじける熱弁に会場は大いに沸きました。

以下、分科会の概要を報告します。

### ・第一分科会（組織・運営）

基調講演はK-1でおなじみの角田信朗氏で、少年時代の体験や、故アンディフグ氏との壮絶な別れなど、笑いあり涙ありの内容は、会員の心に響くものがありました。

パネルディスカッションでは「学級のPTAなくして、日本のPTAなし」〜今こそ、日本のPTAの原点を見つめよう〜

PTAの原点を見つめよう〜を研究課題に、形骸化した組織をなくし、学級、学年単位で活動しながら、先生も主体的に参加する仕組みを取り入れた新しいPTAの事例、地域の団体を巻き込む提案、日本PTAの活動のあり方にまで及び、一貫して「変革を求めめる強いメッセージ」が溢れました。

### ・第二分科会（家庭教育）

「遊びながら生まれる子ど

もとの会話」を研究課題にしたこの分科会では、千葉市立宮崎小学校の「パパスくらぶ」の実践発表があり、本県で実施の「おやじクラブ」の参考になりうる活動と思われました。

パパスくらぶは「子どもたちのために何かをしたいと思ってお父さんはいはらずだ。」と考えた7年前の父親の発案から始められました。最初は4〜5人でしたが、今では30人以上になりました。「できるときに、できることを、一生懸命、頑張る」を合言葉に、仕事や都合に合わせて活動しています。普段はそれぞれ違う仕事をし、年令も趣味も異なるお父さん同志、親睦も深まっています。

子どもたちの「ありがとう」が活動の原動力ですと結び、参加しているパパさんたちの楽しく取り組む姿が想像できると発表でした。

### ・第三分科会（学校教育）

「子どもたちに残そう この地球（ほし）の恵み」〜自然から学ぶ 環境教育〜

「企業から学ぼう！広報PR」

### ・第四分科会（広報活動）

「企業から学ぼう！広報PR」

### ・第五分科会（地域連携）

基調講演は元警視庁のジャーナリスト黒木昭雄氏による「子どもの背後に迫る犯罪者の魔の手、危険はいつも身近にある」と題し、少年事

件の傾向や実態について話され、地域の防犯活動とともに家庭での教育がより重要であると力説されました。

### ・第六分科会（人権教育）

「活きるための性と生」

### ・第七分科会（国際理解）

「地球規模の人間形成に必要な資質、能力、技能とは」

### ・第八分科会（健康・安全）

「子どもの未来は生活リズム」

### ・特別第一分科会

研究課題を「いのちの尊さ大切さ」として、基調講演は

「知的障がい者から学んだ『生きるということ』」と題した細川佳代子氏による人間性溢れる講話でした。

### ・特別第二分科会

「新学習指導要領により、学校教育やPTA活動はどのように変わるのか？」

パネルディスカッションでは本県P連元会長の赤田英博氏を含む6名のパネリストによる熱い議論が重ねられ、「新しい公共」に向って、共に生きる意識を個人個人が強く持ち、更に深めていくためにはPTAの力が必要であり、時代に応じ、地域に応じた活動が求められていると呼びかけられました。

来年は「ひろしま大会」です。広島で興味ある分科会に参加しませんか。子どもたちのために見聞を広めましょう。



第42回

# 東北ブロック研究大会八戸大会

9月11日(土)～12日(日)

「海と大地のハーモニー」「子どもとともにほぐくむ 夢・コミュニティ」を大会主題として、標記大会が二〇〇〇名の会員の参加を得て開催されました。本県からは一〇〇余名の参加で、第三分科会(健全育成) 高橋好晴さん、第七分科会(特別課題) 小松田泰さんのパネリストとしてのご活躍もあり、有意義な研修となりました。また、来年度の本県開催のあいさつでは、「なまはげ」の登場で会場を沸かせ、全員がシンボルマーク入りのTシャツでのアピールは、さらに会場を熱くしました。

以下、各分科会のピックアップとパネリストお二人の感想です。

● **第一分科会(組織・運営)**  
PTA活動は「未来からの留学生」である子どもたちの健全な育成を思う大人の社会参加活動であり、特別な専門性、経験を持つ人が必要ではない。学校の教育目標等を十分理解して、教育活動が効果的に進められるように「必要な協力」を協調の精神で進めることが大切で、学校と親とは敵対するものではない。

● **第二分科会(研修活動)**  
会員の意識と活動の質の向上を図る研修活動

● **第三分科会(健全育成)**

PTAのエネルギーを核にしたネットワーク八戸型教育コミュニティ「すこやかみなみネット」事業の実践発表があり、事業を重ねることに、子育てに関するコミュニケーションのかたち・絆が地域に形成されつつあるとのこと、感動を呼んだ。

● **第四分科会(家庭と小学校教育)**  
わが子の望ましい成長を願わない親はどこにもいないはず。五体満足で生まれてくれればそれでいいと願って誕生して来た子どもが成長するにつれ、そうとばかり言っていない現実。「優しく、正義感があつて、勉強もそこそこに：」どんな親もそう願わずにはいられません。小学校長が語る、現在の小学校の姿がありました。

● **第五分科会(家庭と中学校教育)**  
入学当初から「力のあるいい人間になるための五つの鉄則」と「文武両道」を貫くことを要求しながら、1年生「希望式」2年生「立志式」3年生「卒業式」と学年毎に意図的に「筋目」となる行事を設定し、また後援会等により「人間力」の向上を目指しているとの中学校長の講演の後パネルディスカッションに移り、中学生との関わりが討議されました。

● **第六分科会(健康安全教育)**  
食の安全を地産地消の観点から考える

食を通して心身ともに健康な子どもを育てる環境づくり

● **第七分科会(特別課題)**  
学校・家庭・地域・行政が協働した学校づくり  
学校運営への地域住民の円滑な参画のあり方



## 平成二十二年度 表彰一覧

〔文部科学大臣表彰〕

- ・ 秋田市立山王中学校PTA
- ・ 北秋田市立鷹巣小学校PTA
- ・ ルーテル愛児幼稚園PTA

〔日本PTA全国協議会会長表彰〕

- 団体
- ・ 男鹿市立潟西中学校PTA
  - ・ にかほ市立仁賀保中学校PTA
- 個人
- ・ 阿部 聖 (県P連副会長)
  - ・ 佐々木 美奈子 (県P連副会長)
  - ・ 菅生 努 (県P連副会長)
  - ・ 佐藤 正明 (県P連副会長)

〔東北PTA連絡協議会会長表彰〕

- 団体
- ・ 鹿角市立尾去沢中学校PTA
  - ・ 秋田市立太平小学校PTA
  - ・ 秋田市立將軍野中学校PTA
  - ・ にかほ市立小出小学校PTA
  - ・ 湯沢市立湯沢北中学校PTA
- 個人
- ・ 三浦 仁 (大館・北秋田PTA連合会前会長)
  - ・ 中川 光博 (潟上市・南秋田郡PTA連合会元会長)
  - ・ 佐藤 信子 (男鹿市PTA連合会副会長)
  - ・ 佐藤 勝則 (由利本荘市立本荘北中学校PTA会長)
  - ・ 茂木 督 (せんぼくPTA連合会元会長)
  - ・ 佐々木 健 (横手市PTA連合会前会長)

〔秋田県PTA連合会会長表彰〕

- 団体
- ・ 小坂町立小坂中学校PTA
  - ・ 大館市立城南小学校PTA
  - ・ 男鹿市立船川南小学校PTA
  - ・ 秋田市立港北小学校PTA
  - ・ にかほ市立平沢小学校PTA

# 環境と学力

県P連前副会長  
高橋好晴

去る9月11日、日本PTA全国協議会東北ブロック大会八戸大会の第3分科会にパネリストとして参加させていただきました。八戸市公会堂文化ホールを会場に「健全育成」をテーマに、まさに携帯電話に象徴される昨今のネット社会問題や、子供は地域全体で育むネットワークづくりなどの教育問題を討論する場となりました。

私もパネリストという大役を仰せつかることとなり、初めての経験にとっても緊張しましたが、何とか無事責務を全うできました。

さて、全国大会、東北大会等の県を超える大会に参加し、他県の皆様と意見を交わしたり、各種分科会を拝聴するたびに、いつも同じ事を強く感じて帰途に就いています。それは他県・他地域と比べると私の地元の児童生徒が置かれている教育環境・生活環境が大変素晴らしいものであり、学力が4年連続全国トップレベルであり続けているのがここにあるのではないかと思われることです。先生・保護者・地域住民が一体となって協力しあい子供たちが安全安心に通学・勉強できる環境がここにあるのだと感じます。

八戸大会が終わり帰途に就く直前に、福島県のPTA会員の方

ら「秋田県が学力トップの秘訣は」と聞かれました。秘訣など無いことは県民の誰もが承知の事と思いきう答えました。「秋田の子供たちはみんな素直です」の言葉を添えて。



## 地域に根ざす

県P連前副会長  
小松田泰

先般開催された、第42回東北ブロック研究大会・八戸大会のパネリストとして参加してきましたので、少し述べさせていただきます。9月12日(日)、小雨の降る八戸市南郷文化ホールで「第7分科会特別課題」として「学校・家庭・地域・行政が連携した開かれた学校づくり」を研究内容として行なわれました。パネリストとして仙台市PTA協議会副会長の佐藤 美佳子さん、地元を代表として八戸市立三条中学校PTA会長 小笠原 博仁さん、そして私の三人がそれぞれ発表しました。佐藤さんの地域

は仙台市と言う事で、110番の家(安心安全の為の駆込み場所)の案内を行政と協力して地図にして各家庭に配布していると言うものでした。これは、なかなか有りそうではなかった企画だなアと感心させられました。当地区でもこれはやってみたい企画の一つだと思いましたが、小笠原さんの発表は学校創立60周年記念事業として、グラウンド整備を自分達の手で行ったと言うものでした。内容は行政が予算をつけてくれたが、整備は2週間かけて地域住民や父兄、学校が一体となって行い、役割分担をして共に汗を流した思い出を話して頂きました。私の発表は上記の4つがいかにリンクし合い、それぞれの出来る範囲内での最大の効果をどう発揮するかという内容を話しました。お互いの意見を話し、地域に根ざした活動がこれからも必要だと言う事を再認識させられました。



- ・大仙市立高梨小学校PTA
- ・横手市立田根森小学校PTA
- ・羽後町立羽後明成小学校PTA

### 個人

- ・小田切 孝 幸(鹿角市立平元小学校PTA会長)
- ・浅川 博文(大館北秋田PTA連合会前副会長)
- ・古倉 貞 男(大館北秋田PTA連合会前副会長)
- ・相沢 純 一(能代市山本郡PTA連合会前副会長)
- ・中川 光 博(潟上市・南秋田郡PTA連合会元会長)
- ・藤原 仁 美(潟上市・南秋田郡PTA連合会前副会長)
- ・佐藤 哲 彦(男鹿市PTA連合会前副会長)
- ・佐藤 弘 康(秋田市PTA連合会前副会長)
- ・草薙 巧(秋田市PTA連合会前副会長)
- ・阿部 昌 子(秋田市PTA連合会前副会長、事務局次長)
- ・佐藤 吉 則(由利本荘市PTA連合会前副会長)
- ・安部 長 広(由利本荘市立尾崎小学校PTA前会長)
- ・石川 修(由利本荘市立岩城中学校PTA前会長)
- ・大滝 十子(にかほ市立上浜小学校PTA前副会長)
- ・茂 木 督(せんぼくPTA連合会前副会長)
- ・榎 尾 順 子(美郷町立六郷中学校PTA前会長)
- ・高 橋 隆 男(横手市立南小学校PTA前会長)
- ・笹 勝 也(横手市立増田小学校PTA前会長)
- ・大日向 一 広(湯沢雄勝PTA連合会前副会長)

### 「秋田県PTA連合会会広報紙コンクール」表彰入賞

#### 小学校の部

- ・由利本荘市立尾崎小学校PTA「おぎぎ」
- ・秋田市立外旭川小学校PTA「そとあきひかわ」
- ・秋田市立川尻小学校PTA「香雲」
- ・秋田市立勝平小学校PTA「かつひら」
- ・秋田市立旭川小学校PTA「あくあ」
- ・秋田市立仁井田小学校PTA「にいた」

#### 中学校の部

- ・秋田市立外旭川中学校PTA「しらはと」
- ・大仙市立大曲中学校PTA「わかたけ」
- ・秋田市立下浜中学校PTA「風紋」
- ・秋田市立勝平中学校PTA「松籟」

※以上の十校は全国コンクールに推薦しました。





第23年度  
(社)日本PTA全国協議会

# 第43回 東北ブロック研究大会 秋田大会

平成23年  
9月17日(土)  
18日(日)

## 美の国 詩の国 秋田で語ろう PTAを

～子どもたちのために いまできること これからのこと～



### 主催

(社)日本PTA全国協議会  
東北PTA連絡協議会  
秋田県PTA連合会

### 会場

「全体会」秋田市文化会館  
「分科会」県内6地区

### 全体会

秋田市PTA連合会

### 分科会

- 第1分科会 (組織・運営)  
能代市山本郡PTA連合会
- 第2分科会 (研修活動)  
由利本荘市PTA連合会  
にかほ市PTA連合会
- 第3分科会 (健全育成)  
潟上市・南秋田郡PTA連合会  
男鹿市PTA連合会
- 第4分科会 (家庭と小学校教育)  
せんぼくPTA連合会
- 第5分科会 (家庭と中学校教育)  
湯沢雄勝PTA連合会
- 第6分科会 (健康・安全教育)  
横手市PTA連合会

秋田県PTA会員全員の力を結集して、この大会を成功させよう!

### 編集後記

本号の編集をしながら、それぞれの大を振り返った。酷暑の全国大会、雨後晴れの八戸大会、晴天に恵まれたかづの大会と参加された会員の皆様を持ち帰った成果を今後につなげていきたい。今年も「教育県秋田」の名を高めてくれた、子どもたちのがんばりを褒めてやりたい。年が明けるといよいよ「秋田大会」である。会員皆様のご協力を切にお願い申し上げます。(N)

### 県P連からのお願い

「書き損じはがき」  
本年度も年賀はがきの時節を中心に「一人1枚以上の抛出運動」を実施いたします。諸活動を通して、子どもたちの還元を考慮しておりますので皆様のご協力をお願いします。

**安全互助会からのお願い**

忘れちゃいませんか!  
けがが治ったら保険金請求の手続きをお願いします。

## 大人の休日倶楽部

大人の休日倶楽部会員バスをお求め・ご利用にはこちらへの入会が必要です。  
くわしくは、お近くの駅びゅうプラザの入会申込書をご覧ください。

**募集中!**  
「大人の休日倶楽部」ホームページ  
[www.jreast.co.jp/otona](http://www.jreast.co.jp/otona)

満50歳以上のあなたに **初年度年会費(2,500円)無料!**

### 大人の休日倶楽部ミドル

JR東日本線・JR北海道線のきっぷが**5%割引**で何回でもご利用いただけます。

※一部割引にならない商品・列車・設備・期間などがございます。  
※「大人の休日倶楽部ミドルカード」(クレジットカード)でのお支払いに限りません。

入会条件 男性満50歳以上64歳、女性満50歳以上59歳までの方

年会費 2,500円(カード年会費500円含む・消費税込み)

男性満65歳以上、女性満60歳以上のあなたに

### 大人の休日倶楽部ジパング

JR東日本線・JR北海道線のきっぷが**30%割引**で何回でもご利用いただけます。

※一部割引にならない商品・列車・設備・期間などがございます。  
※「大人の休日倶楽部ジパングカード」(クレジットカード)でのお支払いに限りません。

入会条件 男性満65歳以上、女性満60歳以上の方  
(ご夫婦の場合、どちらかが満65歳以上なら、お二人そろってお申し込みいただけます)

年会費 個人会員4,170円(カード年会費500円含む・消費税込み)  
夫婦会員7,120円(カード年会費1,000円含む・消費税込み)

## 日新火災

お客さまひとりひとりと、顔のみえるおつきあい。

お客さまに最も身近で誠実な損保を目指して  
秋田県PTA安全互助会補償制度取扱会社  
**日新火災海上保険株式会社**  
秋田支店 〒010-0001 秋田市中通4-5-2 TEL.018-837-5255

日新火災は、ひとりひとりのお客さまとしっかり向きあう「顔のみえるおつきあい」で、お客さまのご期待にお応えしたいと考えています。